

## 「地球環境の改善について、私たちにできること」

平成26年3月18日役場会議室において、岩手県地球温暖化防止活動推進員の薄井信次氏をお迎えし、環境改善ワークショップを開催しました。

地球温暖化のメカニズム、二酸化炭素濃度の変化などについて説明をいただき、原発事故を契機に再生可能エネルギーが進展していくか重大な局面にあるなか、何をしていったらいいのか課題を提起されていました。

そのためには、各家庭でエネルギーを節約する省エネだけではなく、エネルギーを作り出す創エネではないかとし、参加者から、それぞれのアイデアを出し合い、また、発表し合いました。



### 黄金沢地区にメガソーラーの建設を決定

#### 再生可能エネルギーと歴史的資産が共存するシンボル

平泉町とソーラーフロンティア株式会社は、黄金沢地内に13MW（1万3千キロワット）のメガソーラーの建設を決定しました。

このプロジェクトは平泉町が主体となり、約30ヘクタールの事業用地を確保するにあたり地域住民の協力を得て実現されたものです。ソーラーフロンティアと共同でプロジェクト化し、完成後はソーラーフロンティアが発電事業者となり同発電所を運営します。同施設での年間発電量は平泉町の全2,630世帯の年間電力消費量とほぼ同等と見込んでいます。

### 環境講演会開催

エコネット平泉では、岩手県地球温暖化防止活動推進員の川邊弥生さんを講師に招き、「環境講演会」を開催します。多くの方々のご参加をお待ちしています。

- 日 時 平成27年3月19日（木曜日）  
18時30分～20時30分
- 会 場 役場201会議室
- 内 容 フードマイレージ  
「食べ物から温暖化防止を考える」
- 参加費 無料
- 講 師 岩手県地球温暖化防止活動推進員  
川邊弥生さん

### 地球温暖化対策に取り組む会員募集中!!

ひらいずみ地球温暖化対策協議会（略称：エコネット平泉）に入会して、温暖化対策と一緒に取り組みませんか。協議会の目的に賛同する個人・事業者・団体で地球温暖化対策に関心のある方、これから取り組みを实践してみたい方ならどなたでも入会できます。

■会費■ 個人会員 500円 事業者・団体会員 1,000円

入会を希望する方は、お気軽に協議会事務局にお問い合わせください。



# ecoひらいずみ

ストップ! 地球温暖化

発行  
ひらいずみ地球温暖化対策協議会  
(略称：エコネット平泉)  
平成27年3月1日  
(事務局)平泉町役場町民福祉課内  
電話 0191-46-5562 FAX 0191-46-3080  
メール chomin@town.hiraizumi.iwate.jp

## ひらいずみ地球温暖化対策協議会とは

町民と事業者、行政などが、互いに連携、協力しながら、それぞれの立場において地球温暖化防止に取り組むための組織です。

### 活動内容

- 地球温暖化対策の学習・教育活動の推進（意識啓発と実践活動のきっかけづくり等）
- 地球温暖化対策に関する普及啓発活動（省エネ・節電対策等普及啓発活動）
- 会員相互の情報交換・研修

### ◆地球温暖化と再生可能エネルギー◆

20世紀後半以降からの地球温暖化の原因は、私たち人間の生活や経済活動で炭酸ガスなどをいっぱい出したことが原因であると考えられています。

温室効果ガスはいろいろありますがその主なものは二酸化炭素です。これは石油や石炭などを燃やすことにより発生します。

しかし、再生可能エネルギーは地球温暖化の原因になることもなく枯渇する心配もありません。東日本大震災と原発事故が起き、その後再生可能エネルギーの普及へ社会が大きく動いています。



巨大化する台風



集中豪雨



干ばつ



竜巻の発生

近年は大雨や巨大台風、竜巻など、地球温暖化が原因と思われる気象や被害がたくさんおこりました。世界でも干ばつや大規模な山火事、熱波により人命が奪われるなど、今までにない被害が出ています。

### 「わたしたちにできること 再生可能エネルギーの利用」

地球全体に及ぶ異変に対しては、世界中の住民による対策が求められます。

わたしたちの地方では、自然資源に恵まれています。これを活かして様々な再生可能エネルギーを利用することで二酸化炭素を減らすことができます。



太陽光発電



小水力



バイオマス



風力発電

## 環境講演会 「小規模ソーラー発電の良さとメンテナンス」 (H26.7.14)

講師：伊藤博文氏

合同会社静岡市民共同発電所執行社員  
太陽光発電所ネットワーク会員

自然エネルギーの利用を考える際に頭に浮かぶ筆頭が太陽光発電である。大きな設備は必要なく、パネルを並べて電気の線につなぐだけという簡便さが支持されて全国的にも広まっている。今回は、屋根に載せなくても遊休地があれば、そこに架台を組み立て、パネルを載せて固定するだけという小規模太陽光発電についても学んだ。

講師の伊藤博文氏（65歳）は、花巻市出身で一

関高専を卒業し、現在静岡県に在住しており、地元はもとより、茨城県鉾田市にも手作り発電所を作ってきたが、13年、東日本大震災の被災地支援の一つとして野田村の太陽光市民発電所の建設指導をし、昨年一関で立ち上がった「なのはなソーラー」建設をも指導した。県内の市民共同発電所は野田村、一関市の2か所のみである。

## ●地域分散型小規模太陽光発電のメリット

①屋根や遊休地を利用して発電できる ②増えることで原発の再稼働を止められる ③太陽光市民共同発電所を推進する事で、地域の人たちの環境に対する考え方を変えられる ④町おこしの起爆剤になりうる

## ●メンテナンス

太陽光発電所ネットワークでは会員向けの太陽光発電システムの健康診断をしており、月々の発電量を登録することでシステムの異常を発見しやすくなる。

## ●今後に対する思い

- ①日本の国の借金が1千兆円にも達し、赤ん坊も含め1人当たり1千万円にもなる
- ②財政が破たんし円安が進むとエネルギーの基となる化石燃料の価格が高騰し輸入が難しくなり、電力不足、ガソリン不足になり価格が高騰する
- ③食料・飼料の輸入も出来なくなるとの思いがある
- ④地域、個人が電気を購入しないで済むように、太陽光発電と蓄電池の利用を行えば電力不足、ガソリン不足に対処出来る
- ⑤エネルギーの自給、食料の自給を目指す面白い展開が出来るのではないかと考える

## トピック

平泉町では昨年12月から、町内10か所の公共施設の電力供給先を東北電力から、新電力の一つ、日本ロジテック協同組合に切り替えています。年間電力使用量の削減可能、再生可能エネルギーの普及をPR可能などが理由で、金ケ崎町、西和賀町に次いで県内3番目の切り替えです。

県内の市民共同発電所



野田村だらすこ太陽光市民共同発電所1号機

・資金は市民ファンドで調達し、2号機も昨年10月から東北電力に売電開始した。



一関市民共同発電所なのはなソーラー2号機

・疑似私募債で資金を調達している1～3号機（1・3号機は藤沢、2号機は弥栄）が東北電力に売電している。  
・1・3号機は地元自治会に災害時緊急電源配給に関する取り決めをした。

## 資源エネルギーの循環利用施設等視察研修会 (H26.11.05)

## 株式会社「バイオマスパワーしずくいし」

雫石町

国際的にも温室効果ガス抑制に対する関心が高まり、持続可能な自然エネルギーへの転換や廃棄物削減を目指した循環型社会の形成に向けて、日本の各地でも様々な取り組みが行われている。特に発電の目的が自家消費から売電へと移行しつつあり、小規模太陽光発電所の建設が盛んになるなど、市民の関心が高まってきている。そんな中、バイオマス発電事業に取り組んでいる雫石町小岩

井農場にある施設を視察した。

小岩井農牧（株）や雫石町などが出資して設立した採算を重視した施設である。小岩井農場の広大な敷地内にあり、同農場を拠点として食品残渣や家畜糞尿といったバイオマス系廃棄物を安定処理するとともに、電気や肥料等として利活用することで、低炭素・資源循環型社会の構築に貢献する取り組みを行っている。

## ●バイオマス（生物資源）の受け入れ

雫石町から学校等の給食加工残渣、地域の食品加工会社からは果物や野菜、豆製品、ヨーグルトなどの乳製品、菓子類などの残渣、小岩井農場からは家畜の糞尿などを受け入れ、その処理委託費をもって処理費用に充てている。また、堆肥などに再利用するため、有害物質や微生物によって分解されないもの（貝殻やプラスチックなど）の混入には特に注意している。

## ●バイオマスの活用

持ち込まれたバイオマスは固体と液体に分離される。これらは微生物によって分解され、全量が小岩井農場に売却され堆肥、液肥として利用されている。その工程で家畜の糞尿からは大量のメタンガスが発生することとなるが、メタンガスは二酸化炭素の20倍以上の温室効果があるといわれていることから、空気中に放せず、発電機の燃料として利用している。

発電量は4,000kWh/日であり、そのうち施設内で消費する電力は2,000kWh/日であり、残りは新電力の一つサミットエナジー㈱へ売電している。また、自然エネルギーを使って発電した電力を遠隔地で利用する「グリーン電力証書」売上の動きが広がっている。企業などが証書を購入することで、自然エネルギー電気を使ったとみなされる制度があり、雫石から全国に「見えない送電線」により電力を供給する取り組みも行われている。



食品残渣受入棟



発電設備



堆肥化設備

## 明治百年記念公園小水力発電所

八幡平市

八幡平市が明治百年記念公園に整備した小水力発電所は、農業用水路の落差を利用した水車型の発電所であり、14世帯分の消費電力を発電します。また、水車脇に設置された電光掲示板では、発電量を確認することができる。

この発電所は、小中学生に再生可能エネルギーを体験する機会、環境学習の場ともなっており、また、国立公園八幡平への玄関口にあり、観光客へ自然エネルギー供給のまちとしてアピールできるとのことから、発電量は、9.9kWと少ないですが、児童生徒への学習教材、観光面での利活用が行われている。

